試験予想

３級編

第１問　仕訳問題

第２問　1.　商品有高帳
　　2.　支払手形記入帳
　　3.　勘定記入

第３問　1.　試算表作成（明細表）
　　2.　試算表作成（二重仕訳）
　　3.　試算表作成（補助簿）

第４問　1.　損益の振替仕訳
　　2.　減価償却（勘定記入）
　　3.　伝票

第５問　1.　精算表
　　2.　精算表（空欄）
　　3.　貸借対照表・損益計算書の作成

まず、第１問ですが、伝統的に仕訳問題です。ここでは商品売買、手形、有価証券、現金預金等が出題されます。３つないし４つを目標に日々コツコツとできるようにしておきましょう。

第２問は、第１予想として商品有高帳をあげました。商品有高帳は、112 回、116 回に出題されておりますので、出題の可能性が高まっております。ですから、返品、値引を含めた処理は、一度解くようにしておきましょう。

なお、売上値引は売価の修正になりますので、商品有高帳に記入しないので注意してください。また、商品有高帳より売上原価と売上総利益の計算もあわせてできるようにしておきましょう。

第２予想として、支払手形記入帳をあげました。

支払手形記入帳はしばらく出題されておりませんので、支払手形記入帳から仕訳が書き出せるようにしておきましょう。また、そのさい、人名勘定で書かせる場合も想定されます。

約束手形、為替手形の仕訳をするさい、この買掛金はどこの商店かということを常に考えながら仕訳をする練習をしておけばできるはずです。人名勘定で書かせる問題が出題されたとしても、十分対応できるようにしておきましょう。

第３予想として勘定記入をあげました。ここでは、消耗品・消耗品費勘定や売上原価、見越し・繰り延べなどが考えられます。

そのなかでも商品売買に関する勘定記入は要注意です。対策としては109回、113回を試験まで一度解いておきましょう。

簿記の基本といえば、仕訳と勘定記入です。しかし、その勘定記入を苦手にされる方がおられます。商工会議所が公表する「出題者の意図」で勘定記入の重要性を説いておりましたので、しっかりできるようにしておきましょう。

また、勘定記入の問題を解くコツは、仕訳を考えることです。仕訳を書き出せば、あとは相手勘定科目、金額を転記するだけです。もし、本試験で勘定記入が出題された場合は、下書き用紙に仕訳を書き出してみてください。

また、103回の第5問の精算表に勘定記入させるという問題が出題されましたので、第5問対策のためにも十分、対策を講じておく必要があるかと思います。

そのとき、期首になると再振替仕訳をおこなうことをしっかり頭のなかにＩＮＰＵＴして問題を解くようにしましょう。

第３問は、第１予想は明細表作成のある試算表作成を予想しました。最近では、二重仕訳系の問題が頻出されておりますので、明細表作成のほうは十分練習しておきましょう。

また、このところ、第3問の仕訳の難易度はあまり高くありませんでしたので、手形を中心に仕訳問題をしっかりできるようにしておく必要があります。

対策として、試験までに107回は一度解いておくようにしましょう。

また、当座借越のある試算表作成も一度解いておきましょう。当座借越のある試算表作成は、第81回に出題されたことがあります。119回に第３問の決算整理前の試算表作成という問題が出題されました。119回の第３問のような問題は第79回に出題されて以来の久しぶりの出題でしたので、そういった意味でもこの当座借越のある試算表作成は要注意です。したがって、試験までに一度81回を解いておきましょう。

第２予想として、二重仕訳のある試算表作成をあげました。

最近、二重仕訳を削除して試算表を作成させるという問題が頻出しております。したがって、十分に対策を講じておく必要があります。対策としては、111回にかなりの仕訳量がある問題が出題されましたので、試験までに一度111回を解いておくといいでしょう。

第3予想として、補助簿より試算表を作成させると問題を予想しました。105回に一度出題されたことがあります。ですから、各補助簿から仕訳を書き出せるようにしておきまし

ょう。そのさい、１つの取引に２つの補助簿に記入させるものがあります。そういった場合、２つの補助簿から仕訳を書き出すと２重になってしまいますので、注意してください。

また、当座預金出納帳は残高が貸方残高になる場合と借方残高になる場合があります。借方残高は当座預金を意味し、貸方残高は当座借越を意味します。もう一度試験までに、当座預金出納帳について確認しておきましょう。

また、補助簿から試算表を作成させる問題の対策としては、試験までに105回を一度解いておくようにしておきましょう。

最後に、期首の貸借対照表が資料に与えられている場合、経過勘定（前払・前受・未収・未払）が計上されている場合があります。その場合、再振替仕訳をおこなってから期中取引の仕訳をおこなうことを忘れないようにしてください。

３級合格のためには、この第３問である程度得点を獲得しないとかなり厳しいものとなります。時間配分に気をつけて解くようことに留意しましょう。

第４問は、第１予想として損益への振替仕訳を挙げました。損益への振替仕訳は101回 、103回に出題されております。また、第１問でも出題されたことがありますので、十分対応策を練っておく必要があるかと思います。

第２予想として減価償却の勘定記入をあげました。減価償却の記帳方法として直接法と間接法がありますが、同じ部分と異なる部分を明確にしておきましょう。対策として、試験までに106回を一度解いておくようにしましょう。

第３予想として伝票をあげました。伝票は前回に出題されましたので出題の可能性は低いといえますが、第４問では一番出題率の高い論点ですので、十分対策を講じておくようにしておきましょう。

また、従来、伝票の問題は商品売買が中心に出題されておりましたが、最近では仮払の精算や固定資産の売却など商品売買以外の取引を伝票で起票する問題が出題されておりますどのような取引が出題されたとしても、２つの伝票の仕訳を合わせると、その取引の仕訳にならなければなりません。その基本をしっかり抑えておけば、どんな問題でも対応できます。ですから、今一度しっかり基礎・基本の徹底を図るようにしておきましょう。

第５問は、第１予想としては、ノーマルな精算表が予想されます。最近の精算表では、未処理、訂正仕訳をさせる問題が出題されております。

仮受金、仮払金、貸倒れ、売上原価の計算、減価償却、見越し・繰り延べなど過去に１クセある問題が出題されておりますので、できるだけ多く問題を解き、さまざまな問題に対応できるようにしておきましょう。

また、売上原価の計算で、いつも「売上原価は仕入の行で計算すること」が出題されますが、

もう１つの「売上原価は売上原価の行で計算すること」という場合もあります。118 回、119 回と立て続けに、この「売上原価は売上原価の行で計算すること」が出題されておりますので、試験までにマスターしておきましょう。

第 2 予想として金額を推定させる精算表をあげました。

空欄の精算表を解くコツは、見越し、繰り延べを含めて決算整理仕訳が頭に入っているかどうかが１つのポイントになります。空欄の精算表の問題を苦手にされる方がおりますが、慣れたら 20 分程度でできるようになります。

対策として、試験までに 110 回、第 5 問を一度解いてきましょう。

第 3 予想として、貸借対照表、損益計算書の作成をあげました。120 回出題されておりますので、今回出題される可能性は低いですが、また出題されるという可能性もないとはいえませんので、103 回、106 回、120 回を試験までに一度解いておきましょう。

最後に、上記に述べたのはあくまでも予想です。理想は満遍なくできることです。ですが、本試験まで限られた時間しかありません。よって、あまり学習が進んでいない方は上記の予想を参考にしながら本試験まで学習を進めてください。